

# 広島市地域生活支援拠点



- 1 地域生活支援拠点等の整備について
- 2 広島市の概要
- 3 地域生活支援拠点等の整備プロセス、整備類型、概要
- 4 5つの機能の内容と具体的な状況
- 5 申込・登録状況
- 6 登録者の状況
- 7 地域生活支援拠点等における支援の事例と取組
- 8 地域生活支援拠点等の整備・運営における今後の課題・方針

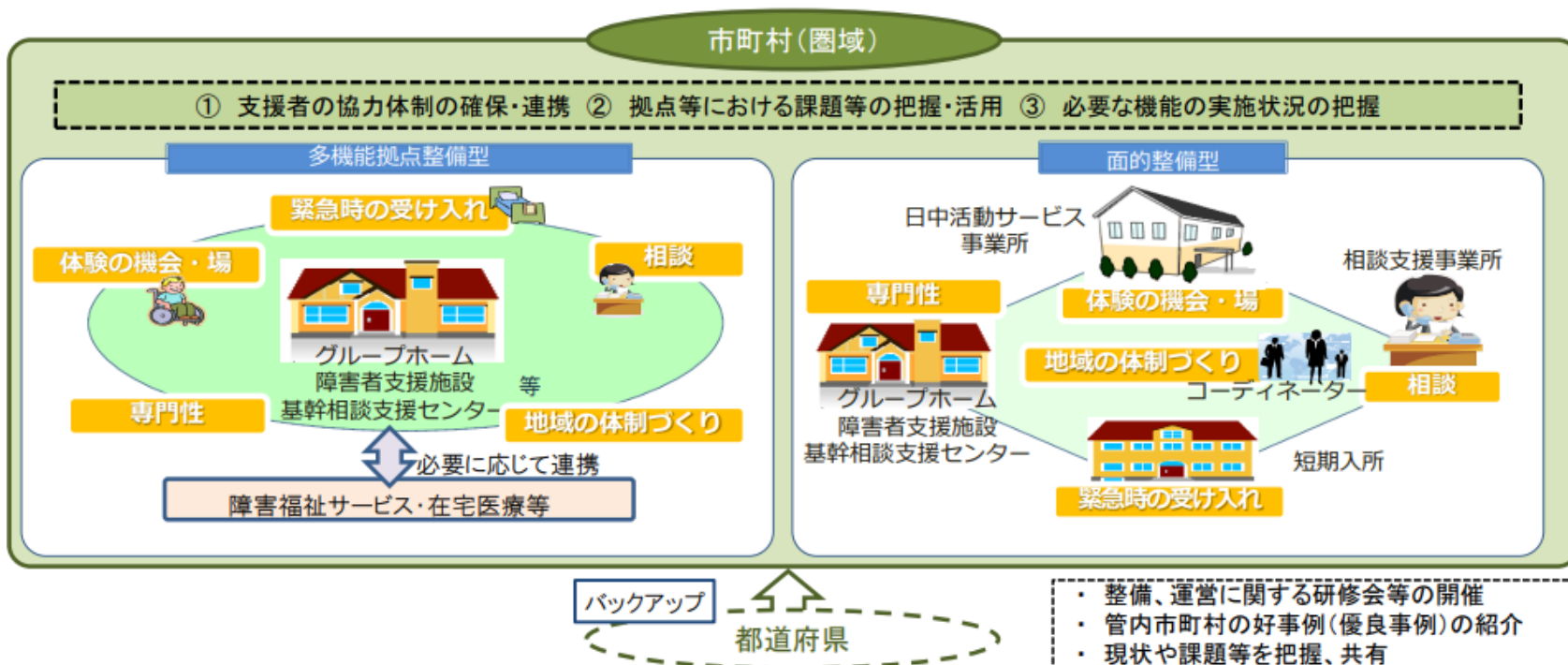
広島市健康福祉局障害福祉部障害自立支援課  
(令和6年2月)

# 1 地域生活支援拠点等の整備について

障害者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え、**居住支援のための機能（相談、緊急時の受け入れ・対応、体験の機会・場、専門的人材の確保・養成、地域の体制づくり）**を、地域の実情に応じた創意工夫により整備し、障害者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築。

●**地域生活支援拠点等の整備手法（イメージ）** ※あくまで参考例であり、これにとらわれず地域の実情に応じた整備を行うものとする。

各地域のニーズ、既存のサービスの整備状況など各地域の個別の状況に応じ、協議会等を活用して検討。



## 2 広島市の概要（令和5年11月末現在）

総人口 1,179,400人

### 障害者数

各手帳の所持者数 (総人口に占める割合)

- ・身体障害者数 40,736人 ↓ (3.45%)
- ・知的障害者数 10,223人 ↑ (0.87%)
- ・精神障害者数 20,064人 ↑ (1.70%)



身体障害者は減少、知的障害者及び精神障害者の数は増加傾向にあります。  
特に精神障害者の数が増加しています。

R2.3末の数 身体障害者数（41,687人）、知的障害者数（9,127人）、精神障害者数（16,884人）

区分	中区	東区	南区	西区	安佐南区	安佐北区	安芸区	佐伯区	全市
身体	4,990	4,360	5,069	6,100	6,995	5,802	2,758	4,662	<b>40,736</b>
療育	1,049	1,089	1,303	1,504	1,937	1,446	705	1,190	<b>10,223</b>
精神	2,557	2,056	2,451	3,645	3,479	2,360	1,336	2,180	<b>20,064</b>

# 3 地域生活支援拠点等の整備プロセス、整備類型、概要

## 整備のプロセス

- 平成27年度、国の基本方針を受けて検討を開始
- 自立支援協議会の相談部会で地域生活支援拠点等の方向性を明確化
- 第5期広島市障害福祉計画（平成30年度～令和2年度）の目標により、平成30年度から各区障害者基幹相談支援センターで順次事業を開始し、令和5年12月に全区設置

## 整備類型

- 面的整備型（地域体制整備コーディネーターを中核とし、専門機関が連携を図る面的整備）

## 概要

- 基幹相談支援センター（以下「基幹センター」という。）に配置された地域体制整備コーディネーターが、主な相談者の役割を担う
- 現状の社会資源や制度を活用しながら、「相談」、「緊急時の受け入れ」、「地域の体制づくり」の3機能の整備に主に取り組む
- 原則登録制とし、緊急時に備え利用者の情報を取得する

## 4 5つの機能の内容と具体的な状況

### 1 相談

**(機能の内容)** …国が示す内容

基幹相談支援センター、委託相談支援事業、特定相談支援事業とともに地域定着支援を活用してコーディネーターを配置し、緊急時の支援が見込めない世帯を事前に把握・登録した上で、常時の連絡体制を確保し、障害の特性に起因して生じた緊急の事態等に必要なサービスのコーディネートや相談その他必要な支援を行う機能

**(具体的な状況)** …当市の主な状況

- 地域体制整備コーディネーター及び基幹センター専従職員等が事前登録者を対象として、24時間、365日の緊急時相談支援（休日夜間は携帯電話等で対応）

### 2 緊急時の受け入れ

**(機能の内容)**

短期入所を活用した常時の緊急受入体制等を確保した上で、介護者の急病や障害者の状態変化等の緊急時の受け入れや医療機関への連絡等の必要な対応を行う機能

**(具体的な状況)**

- 事前登録者の緊急対応プランを作成することにより予防支援、緊急支援を強化
- 緊急の際には既存の資源をよりスムーズに活用できるよう、平時から関係事業者等と連携し、緊急時の受入候補となる施設の体験利用など、支援に繋ぐ仕組みをつくる
- 緊急時は基幹センターが利用できる事業所を探す等協力し対応（短期入所は日常的に不足しており、緊急時の空床確保が困難）
- 緊急短期入所受入加算

### 3 体験の機会、場

#### (機能の内容)

地域移行支援や親元からの自立等に当たって、共同生活援助等の障害福祉サービスの利用や一人暮らしの体験の機会・場を提供する機能

#### (具体的な状況)

- 親亡き後や緊急時の対応を見据え、障害者と家族に自立支援の必要性と障害福祉サービス制度の普及・啓発を行い、サービス利用に繋げることを重視
- 施設入所する前に見学や短期入所にて泊まりの体験を支援

### 4 専門的人材の確保・養成

#### (機能の内容)

医療的ケアが必要な者や行動障害を有する者、高齢化に伴い重度化した障害者に対して、専門的な対応を行うことができる体制の確保や、専門的な対応ができる人材の養成を行う機能

#### (具体的な状況)

- 基幹センター専従職員及び地域体制整備コーディネーターは、専門性を有する職員であり、3障害に総合的に対応
- 基幹センターにおいて事例検討会や相談支援専門員の勉強会を実施
- 全区の地域体制整備コーディネーターで情報交換会を開催

### 5 地域の体制づくり

#### (機能の内容)

基幹相談支援センター、委託相談支援事業、特定相談支援、一般相談支援等を活用してコーディネーターを配置し、地域の様々なニーズに対応できるサービス提供体制の確保や、地域の社会資源の連携体制の構築等を行う機能

#### (具体的な状況)

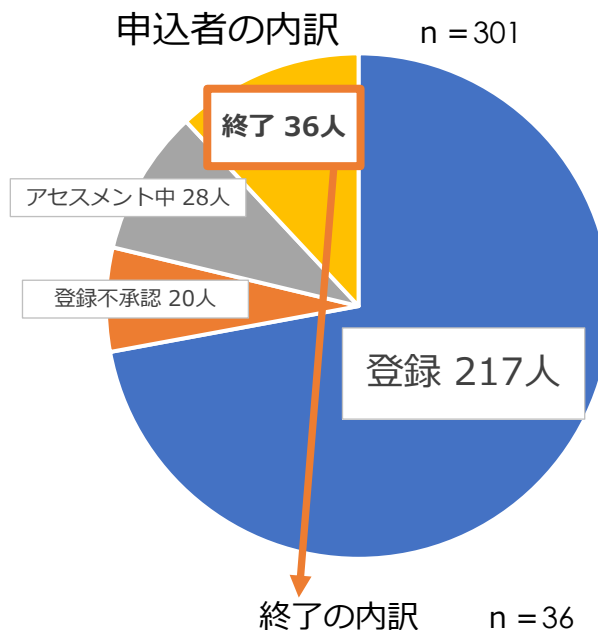
- 区自立支援協議会において、地域の関係機関、関係者とのネットワークづくり、地域の課題やニーズに関する意見交換や連携を図る
- 地域団体や住民との橋渡しや把握（地区のネットワーク会議に参加等）
- 関係者への研修や説明（特別支援学校、家族会等で説明）

# 5 申込・登録状況 (令和5年12月末時点)

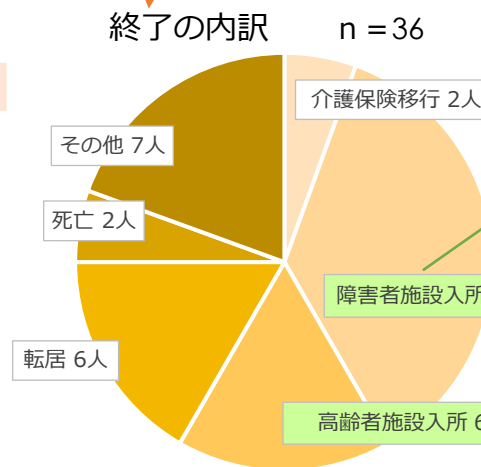
区	事業開始	申込者	登録者数
西区	H30.3	77	54
安芸区	R1.10	62	51
中区	R2.10	54	48
佐伯区	R2.10	45	28
安佐北区	R3.7	45	24
南区	R4.7	15	11
東区	R5.7	3	1
安佐南区	R5.12	-	-
計		301	217

※申込者は、業務開始から現在までの総申込者数

156人 (令和4年8月末)



申込者301人のうち登録した者は217人 (72.1%)

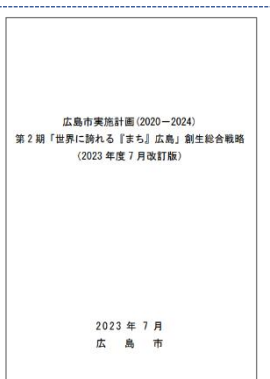


支援が終了した36人のうち入所した者は18人 (50.0%)

## 広島市実施計画(2020-2024) 第2期「世界に誇れる『まち』広島」創生総合戦略

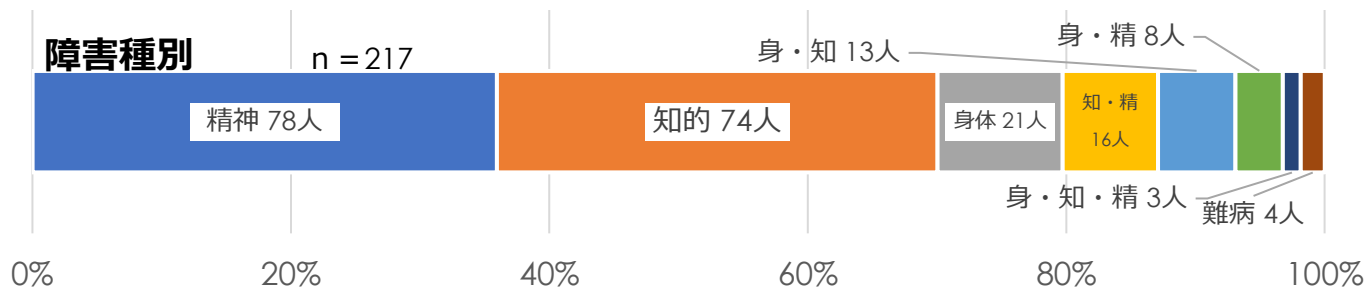
地域生活支援拠点の重要業績評価指標(KPI)

登録者数 400人 (2024年度の最終目標値)

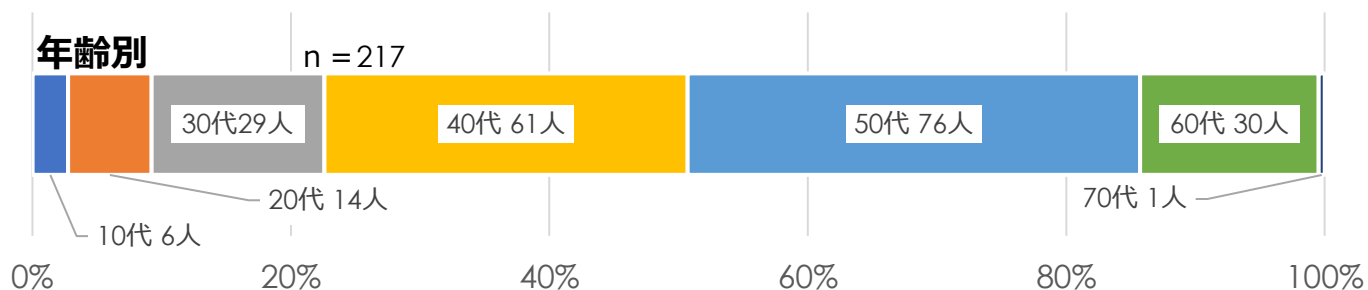




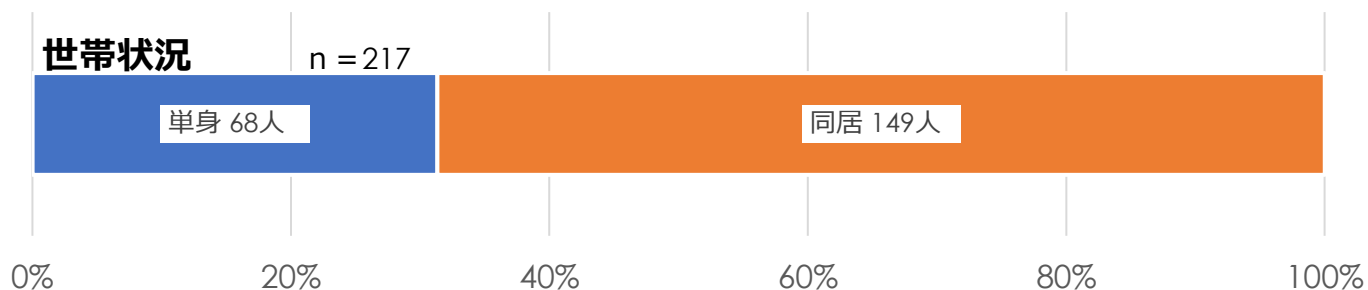
## 6 登録者の状況 (令和5年12月末時点)



登録者217人のうち知的や精神を伴う者は192人 (88.5%)



登録者217人のうち、40代と50代が137人 (63.1%)



登録者217人のうち、同居が149人 (68.7%)



## 7 地域生活支援拠点等における支援の事例と取組（中区）

### 事例

#### 利用者の属性

50代 精神疾患 父と二人暮らし

#### 利用した経緯

親亡き後を心配した父が本人の職場に相談。職場も本人の日常生活面で課題を把握していたため関係者会議の開催があり基幹とつながった。その後本人や父とも会い、事業利用となった。

#### 利用の効果等

親子の変化をキャッチするため2か月に1回の定期訪問を実施。父を介護保険制度に繋ぎ、本人は家事援助や訪問看護の利用を開始し、就労継続支援A型事業所に通所中。親亡き後も自宅での生活を希望されている。

★平日の夕方、父の急な体調不良を知らせる連絡が本人からあった。電話では状況がつかめなかったため自宅に訪問し、救急車を要請。搬送先病院へも本人と同行した。父は入院となった。この間に父の担当ケアマネジャーに連絡が取れ、その後の対応をお願いした。同居家族の急病は本人にとって大変不安であり、緊急時対応とした。

★この経験をもとに、他の同様な世帯においても、親の既往歴やかかりつけ医、健康保険証やお薬手帳のある場所などを本人と共に確認するようにした。

### 取組

#### 区の特性やニーズ

- ・2023年12月末現在で申込54名、うち登録48名、終了3名、アセスメント中1名、利用キャンセル2名。
- ・緊急対応54件、時間外対応339件
- ・登録者中単身者22名。知人や親族のいない単身者で現在も将来も不安を抱える方が多い。

#### 取組の状況

- ・中区では登録者からの相談を地域体制整備コーディネーターが持っている携帯電話で直接受けているので、事情もよくわかり、タイムリーな判断と対応ができていると思う。
- ・短期入所へ緊急につないだ例は複数あり。事前に見学し契約、体験利用もしてもらっている。
- ・登録者を対象に「音楽を楽しむ集い」を月1回開催中。社会参加の機会としている。

#### 効果や課題、今後の展望等

- ・親亡き後の心配事を抱える世帯は多くあるので、さらに周知を行い、相談対応していきたい。高齢の親が受診する機会の多い内科医院への広報を予定している。
- ★この事業の必要性は高い。もっと多くの方に対応して行くためには、コーディネーターの数を増やすなどの体制強化が必要と思われる。

## 7 地域生活支援拠点等における支援の事例と取組（東区）

### 事例

#### 利用者の属性

60代 知的障害 療育手帳 障害支援区分あり

#### 利用した経緯

- ・両親は他界。きょうだい（精神障害）と2人で協力し生活している。
- ・本人は金銭管理等が出来ないため、きょうだいが生活費の管理や精神面での支えとなっており、何とか生活が成り立っている。
- ・きょうだいが急に病気や怪我等で入院した場合、生活が成り立たなくなるので、本事業の利用相談を受けた。

#### 利用の効果等

- ・以前ショートステイを利用したことはあったが、「一人で寝泊まりすることが苦手」と言い、その後は利用していない。
- ・しかし、地域体制整備コーディネーターや計画相談員等からの働きかけにより、必要性を理解され、見学から始めることとなり、自分に合ったショートステイ探しを積極的に取り組まれるようになった。

### 取組

#### 区の特性やニーズ

- ・東区は、土砂災害等における危険区域が多く、新たな短期入所施設等の設置が難しい地域である。
- ・したがって、他区に比べ短期入所施設等が少ないのが現状である。そのため近隣区の施設利用が必要不可欠。
- ・このような状況の中で、区内の特別養護老人ホームより「空きベッドを有効活用したい」との申し出があり本会と協議を行っている状況。

#### 取組の状況

- ・R5年7月に本事業の委託を受け、広報・啓発等計画的に取り組んでいる。
- ・具体的には、区民児協評議員会（地区民協）や区社協正副会長等へ事業説明を行っている。
- ・また、区内の各事業所等へパンフレットを送るなどし広報・啓発に努めている。
- ・自立支援協議会主催の会議や研修会等においても、その都度事業紹介等を行っている。

#### 効果や課題、今後の展望等

- ・家族からの申請希望で、本人は、ショートステイ等の利用はしたくない旨の意思表示されている方や意思表示すらできない方への対応が課題

## 7 地域生活支援拠点等における支援の事例と取組（南区）

### 事例

#### 利用者の属性

40代 女性 知的障害 療育手帳 精神疾患  
障害支援区分あり ※次男（10代）と二人暮らし

#### 利用した経緯

- ・母子生活支援施設へ二人の子と入所していた。長男（知的障害）は、GHへ入居した。次男に障害はないが、多感な時期である。
- ・母子生活支援施設から地域移行するが、多くの問題を抱え、地域生活支援拠点事業へ繋がる。
- ・次男には、本人（母親）に強く当たる、進路、携帯料金、ゲーム、生活の乱れ等多くの課題があった。
- ・本人に精神的な不安による入院歴があり、母子が共倒れしないためのサポート体制が必要となった。

#### 利用の効果等

- ・親子関係のパワーバランスに変化を伴う時期であり、次男の安定が本人の安定にも繋がる。
- ・次男に対して利用できる制度や支援の選択肢が少ない中、緊急連絡先として基幹相談(拠点)を掲げ、関係機関との連携により地域生活を支えている。
- ・対応一例として、年末に次男が発熱したことで、パニック状態となった本人から連絡があった。年末外来を調べ、受診調整、タクシーの手配等行なった。

### 取組

#### 区の特性やニーズ

- ・生活支援拠点事業について、制度、障害福祉サービスや計画相談に結び付いていない方を主として対応している。
- ・広島市の課題にもつながるが、相談支援専門員に結び付いていない方への支援が必要とされている。

#### 取組の状況

- ・地域包括支援センターとの連携から世帯単位での支援を意識し取り組みを行なっている。
- ・障害福祉サービス、制度に結び付いていない方を中心に地域の掘り起こしを行なっている。
- ・障害福祉サービス、制度へ結び付きにくい方(例：引きこもりケースなど)にも関係機関と連携を取りご家族が相談できる環境づくりを行なっている。
- ・地域での勉強会、研修会などで地域生活拠点事業について広報、説明の場を持っている。
- ・登録終了の際(GH入居など)、アフターフォローを行ない、その地域の特定相談にお繋ぎしている。

#### 効果や課題、今後の展望等

- (効果) 家族が抱えて込んでこれまで支援に結び付いていない方が着実に支援に結び付いている。
- (課題) 一件に対して新規での福祉サービス、制度利用に繋げるまでかなりの時間が掛かる。
- (展望) 引き続き地域の掘り起こしを行ないながら世帯単位の支援を行なう。

## 7 地域生活支援拠点等における支援の事例と取組（西区）

### 事例

#### 利用者の属性

- ・ 70代 男性 精神障害 障害支援区分なし
- ・ 両親が亡くなった後は、障害のある親族と同居

#### 利用した経緯

- ・ 20代頃から精神科医療機関に入退院を繰り返す。両親が亡くなった後、生活をサポートしている同居の親族の急病等で生活が立ち行かなくなることを懸念し、担当相談支援専門員の紹介で利用となった。

#### 利用の効果等

- ・ 現在は、同居の親族も亡くなられたが、病状を悪化させることなく地域で生活を続けることができている。
- ・ 緊急対応プランを通じて、不安をカバーすることができている。
- ・ 本人に年齢的な体力低下も見られることから、福祉サービスから介護保険へのスムーズな移行に向けて支援中。地区担当保健師、地域包括支援センター、相談支援専門員、就労継続支援B型職員、訪問看護、主治医が情報を共有し一体的な支援体制がとれている。

### 取組

#### 区の特性やニーズ

- ・ 他区と比較し成人や子どもの比率が高く、就労世代が多いのが特徴。3障害とも障害者手帳の所持数が多く潜在的に支援を必要とする方が多数おられるのではないかと考える。

#### 取組の状況

- ・ 事前登録者54名に対し6か月に1度モニタリングを実施。プランの変更等があればその都度更新し、支援関係者と共有している。

#### 効果や課題、今後の展望等

- ・ 緊急対応プランの共有を通じ他分野の支援関係者に支援の必要性の理解を得やすく連携が図りやすい。
- ・ 事前登録者の多くは計画相談などの支援に繋がっており、更なる安心感を求めて拠点事業に登録されている。一方、未だ何の支援にも繋がっていない方への支援が課題。拠点事業の認知度も不十分。
- ・ 地域住民との相互理解が課題。民生委員等からは、「障害者が地域で何に困っているのかわからない」という声も聞かれる。情報交換の場を作るなどして相互理解を深めていきたい。
- ・ 事前登録者が増えると、状況把握や夜間休日等の対応が困難となることが懸念材料。情報共有ツールの開発や必要な支援に引き継ぐ視点も必要と考える。

## 7 地域生活支援拠点等における支援の事例と取組（安佐南区）

### 取組

#### 区の特長やニーズ

- ・人口が多いということもあり、障害福祉サービス事業所等も多い。
- ・区内の支援関係機関のほとんどが地域部会に参加しており、その他地域の関係機関や関係者の参加も多い。
- ・地域の相談支援事業所、障害福祉サービス事業所、その他関係機関との連携構築ができています。（顔の見える関係構築）

#### 取組の状況

- ・12月受託のため、拠点事業についての関係機関等への周知活動を開始している。（地域での面的整備のため）
- ・数年前からの取組で、拠点登録要件に該当する可能性のある方の掘り起こしを実施しており、今後、優先順位の高い方から現在の支援者等の協力を得ながら面談を開始する。
- ・受託前からの活動により、登録要件に該当する方への説明と登録を行う準備をしている。

#### 効果や課題、今後の展望等

- ・地域での支援の協力体制等の構築は、取り組んでいたこともあり、区内の数か所の短期入所事業所から、緊急時の受け入れ協力の内諾をもらっているが、改めて拠点業務の面的整備の正しい理解に課題があると思われる。12月は計画相談等の引継等を行っていたため、十分に活動できていなかったが、今後、時間をかけてでも正しい理解と周知活動を本格化していく予定。
- ・また、上記の活動と並行して、個別の緊急度の高い利用者に対し、個別の面談等を行い、登録を進めていき、具体的な緊急時の受け入れ体制や自立生活に向けた体験等を実施して、支援者を増やし、支援網を構築していく。



## 7 地域生活支援拠点等における支援の事例と取組（安佐北区）

### 事例

#### 利用者の属性

- ・60代 男性 精神障害 一人暮らし
- ・精神障害者保健福祉手帳2級 障害支援区分あり 保佐人(きょうだい)

#### 利用した経緯

- ・父は施設入所。きょうだいとの関係はあまりよくないことから頼りにくい。基幹とつながることで頼れる場所を作りたい。また、高齢になってきたため、もしもの時に備えておきたいということから登録に至った。

#### 利用の効果等

- ・ヘルパー利用日、本人が一日分の内科薬を一気に服薬したことで体調不良となられているとヘルパーから報告があり、コーディネーターが自宅に駆け付け、主治医の指示の下、経過観察する。
- ・このことも含め、服薬管理や栄養面、体力面に関して課題があり、訪問看護の導入を開始。
- ・現在も服薬管理の課題は継続しており、訪問看護、ヘルパーと連携しながら本人の様子を見守っている。
- ・また、日中活動の場についても本人と考える機会をもち、住み慣れた自宅での生活が継続できるよう、引き続き関係機関や家族とも連携しながら支援している。

### 取組

#### 区の特性やニーズ

- ・面積は市域の4割を占める。市街化が進行し社会資源が多い地域と、森林面積が広く社会資源が少ない地域が混在する。
- ・現在の登録者は身体障害者と精神障害者が多い。
- ・緊急時に備えヘルパーや移動支援を希望する人が多い。

#### 取組の状況

- ・まずは基幹の周知が必要であることから区内の医療機関、障害福祉サービス事業所への周知活動を行っている。今年度は主に医療機関に対して相談窓口の周知を行った。

#### 効果や課題、今後の展望等

- ・周知活動により、実際に基幹の相談につながったケースは3件だった。
- ・ヘルパーや移動支援の調整をするが、事業所から山間部周辺は遠方のため難しいと断られ、つながらないことが多い。
- ・障害に対する偏見や誤解があり、理解が進んでいない地域がある。また、通所施設を体験したところ、親から「施設職員に障害やその人に合わせた接し方の理解がもう少しあれば安心してお願いできる。」と言われた。
- ・今後も引き続き障害に対する偏見をなくすことや相談窓口の周知を通し、住み慣れた地域で安心して生活できることを目標に周知活動を行う。

# 7 地域生活支援拠点等における支援の事例と取組（安芸区）

## 事例

### 利用者の属性

- ・40代 知的障害 身体障害（難聴） 心疾患 発語なし 支援区分あり
- 特別支援学校卒業後、就職したが短期間で退職、以後在宅生活
- ・父（認知機能低下）、母（要介護認定あり）の3人暮らしであった

### 利用した経緯

- ・地域包括支援センターが、母に基幹相談支援センターへの相談を促し、介入が開始した。

### 利用の効果等

#### 【介入前】

- ・母が常に主導し生活を維持していた。経済面も含め特に困ることはなかった。
- ・母が高齢で家事が困難となり、生活環境が悪化したが、**両親に危機感はなく家に他人が入ることを拒否。**

#### 【介入の方針】

- ・高齢の支援機関と情報共有を行い、**家族支援**を実施。
- ・親亡き後に向け、**自立を促し住まいを確保。**

#### 【介入内容】

- ・高齢の事業所と連携し見守り体制と緊急時の対応を整備。同時に成年後見人制度を申立て。1年後、選任された。
- ・適切な服薬と健康管理のため訪問看護、居宅療養管理指導を利用。社会と繋がり、やりがいのある生活のためデイサービスやショートステイを定期利用。親亡き後の生活の意識を高める。

#### 【現状】

- ・介入後、父母以外の人と関わり社会に役立つ作業にも携わった。**父が病死、母が施設入所し、一人暮らしとなったが、地域で生活を送ってきた本人の意思を尊重する生活となるように地域、支援者間等の調整**を実施。

## 取組

### 区の特長やニーズ

- ・高齢化率は27.5%。高齢の親との同居世帯が多い。事前登録には**知的障害の人の割合が高い。**
- ・令和元年開設当初は生活が限界直前になっての相談が多かったが、近年は**親が元気なうちに将来に備えておきたい**、何から準備したらいいかという相談内容が増加している。
- ・緊急受入れについて、安芸区では**事前に受入れ施設との契約を済ませておくという仕組み**を作っている。

### 取組の状況

- ・令和元年開設当初 **安芸区内の関係機関への広報**を中心に活動
- ・毎年度 **安芸区民生委員児童委員評議会**で事業紹介、**医療機関（安芸市民病院、マツダ病院）との2か月ごとの情報交換会**実施
- ・当初より安芸区介護支援専門員自主勉強会に所属
- ・令和5年度の特徴 **【芝居による高齢者への効果的な広報】**  
8月25日 安芸区民児協障がい者福祉部会研修会  
テーマ **地域で気になる方がおられたとき**  
～身近な家庭のできごとから～  
主な内容 **ある家庭の基幹センター介入前後の変化を職員による芝居で紹介。①この家庭で将来、心配なこと、②周りの人ができることについてグループワーク実施。**

### 効果や課題、今後の展望等

- ・地域生活支援拠点事業の周知の方法として、初めて芝居を取り入れた。芝居の鑑賞は興味・関心を促し、近隣の困りごとへの対応等我がこととして捉えられ活発な意見交換に繋がった。
- ・医療機関との情報交換会は生活を支える健康管理や地域の医療機関の情報収集に役立ち、大変有意義であった。
- ・新規申込者の要否会議では**事前登録者の現状報告**を実施し、これらから**地域課題を把握、協議**している。今後も継続することで、地域部会と連携し課題解決を図りたい。



## 7 地域生活支援拠点等における支援の事例と取組（佐伯区）

### 事例

#### 利用者の属性

- ・40代 女性 自閉症 知的障害（療育手帳）
- ・父と母（認知症、要介護認定あり）の3人暮らし

#### 利用した経緯

- ・父から、**自身の高齢化**と妻（母）の認知症の進行から、本人の将来を考えたいと相談がある。
- ・基幹（拠点事業）のことは、妻（母）の相談窓口の地域包括支援センターから聞いたとのこと。
- ・将来はグループホームや施設入所を考えているということだったため、障害福祉サービス申請手続や見学同行等の支援を行った。
- ・ショートステイや体験利用を行い、将来の入所に向けて本人、家族ともに安心して過ごせる先を探している。

#### 利用の効果等

- ・**見学や体験利用を行う**ことで、変わらない生活（通勤、帰省）ができることや本人の特性（聴覚過敏等）があっても安心して過ごせる環境を見極めることができている。
- ・父が本人の気持ちなど先回りして考えがちだったが、**本人の気持ちを確認してお互いが納得できる方向**を考えるようになっている。

### 取組

#### 区の特性やニーズ

- ・**引きこもり状態にある本人の将来の心配**というかたちでの相談が多く、登録までに時間を要す。
- ・**重度の障害や重心の方の登録も多い**。
- ・**単身より家族と同居世帯が多い**。
- ・緊急時にショートステイなど家から離れる方法を望む方は少なく、**家での支援を希望される傾向**にある。

#### 取組の状況

- ・緊急時に慣れた環境で過ごせるように何らかのかたちで平時からのサービス利用を行い、**顔なじみの関係が作れるようにしている**。
- ・**地域からの情報が入ってきやすいように民生委員児童委員協議会や当事者の会へ出向き、広報を実施している**。
- ・**地域部会ホームページを活用し、チラシだけでなく幅広い世代に情報が伝わるようにしている**。

#### 効果や課題、今後の展望等

- ・**高齢の家族の支援者からの情報や福祉サービス関係の方から直接登録や相談を希望されるケースも増えてきている**。引き続き障害福祉関係だけでなく、**高齢分野や地域へ広報**を行う。

## 8 地域生活支援拠点等の整備・運営における今後の課題・方針

### 「潜在的ニーズ」の早期把握

- ・ 潜在的なニーズを早期把握し、事前登録や障害福祉サービス、計画相談などに繋げる等の支援（8050問題、地域で孤立、親亡き後、身寄りがない、同居者の急病）

### 地域全体で支えるサービス提供体制の構築

- ・ 民生委員児童委員や地区社会福祉協議会等の地域団体への周知や協力体制、地域の社会資源との連携、障害福祉以外の介護保険や高齢者などの関係事業所や関係機関との連携体制をつくることが今後も必要（重層的支援体制整備）
- ・ 区自立支援協議会地域部会等を活用し、地域に即した支援体制づくりを進める

### 全市への展開から体制の強化・充実へ

- ・ 令和5年度に全ての区に整備完了。次年度以降も継続して体制を維持するとともに体制の強化・充実が必要
- ・ 広島市実施計画、第2期「世界に誇れる『まち』広島」創生総合戦略における重要業績評価指標（KPI）で掲げられた最終登録目標値（令和6年度時点で400人）の達成を目指す
- ・ 地域体制整備コーディネーターの連絡会で事例検討や勉強会を行う等支援技術の向上を図るとともに、各拠点の登録数に応じた人員体制の検討
- ・ 緊急時の対応や受入機能の強化